

富山・高岡・金沢の旅

右城 猛

1. はじめに

2024年1月1日に能登半島地震(M7.6)が発生し、死者・行方不明247人という甚大な被害が出た。北陸地方を少しでも応援したいとの思いで、今年の社員旅行は3班とも2泊3日で富山県・金沢県に行くことにした。

1日目の見学場所は、源ますのすしミュージアム、富山市ガラス美術館、富岩運河環水公園と中島開門。2日目は新湊大橋、高岡大仏と梶原製作所、氷見漁港場外市場、ひがし茶屋街、3日目は伝統産業工芸館、成巽閣、兼六園、近江町市場、金箔総合ミュージアム箔巧館である。

私たち第3班の参加者は新入社員8名と家族を含め22名。夫婦連れはわが家と須内家。これにJTB高知支店の添乗員が2人。宇野さん今春入社の新入社員、上田さんは関連会社のベテラン社員。

2. ますのすし本舗源・ますのすしミュージアム

富山空港から「ますのすし本舗源」に向かう途中、前方に冠雪した立山連峰が雄姿を現した。バスガイドの月間さんの話しでは、立山連峰がこのように見えるのは1年間で50日ほど。5月は霞がかかる。珍しいとのこと。今日は雨を心配していただけに、ラッキーとしか言いようがない。

空港から10分ほどで「ますのすし本舗源」に到着した。源が「ますのすし」の販売を開始したのは1912(明治45)年。110年以上の伝統を誇る老舗企業である。

昼食を食べた後、レストランに併設した「ますのすしミュージアム」を見学した。ますのすしの製造工程をガラス越しに見ることができた。ここは撮影禁止であったが、隣の検査室？は撮影できた。従業員は全身を覆う白い作業着を着て働いていた。

ミュージアムには源の歴史が紹介されていた。文化勲章受賞者の中川一政画伯が描いたとされる「ますのすし」のパッケージが目にとまった。40年前に見た記憶があった。

1983(昭和58)年7月に金沢大学で「第1回落石の衝撃力およびロックシェッドの設計に関するシンポジウム」があり、「落石の飛跳高の推定」と題する研究を発表した。その帰りの列車「雷鳥」の中で食べた駅弁が「ますのすし」であった。あのときの美味しさは忘れることができない。中川画伯のパッケージが1965(昭和40)年から採用されている。私の記憶に間違いがないことを確認した。



車窓の前方に姿を現した立山連峰



ますのすしの検査室



中川一政画伯が描いたますのすしのパッケージ

3. 富山市ガラス美術館

富山市ガラス美術館は2015(平成27)年に竣工した鉄骨6階建て、床延べ面積27,800m²の建物。設計は建築家・隈研吾。内装には木材がふんだんに使われていた。

6階のガラス・アート・ガーデンでは、現代ガラスの巨匠デイル・チフリーによる作品5点が展示されていた。

2階と3階では『大平洋一 ヴェネツィアン・ガラスの彼

方へ』と題する作品が展示されていた。

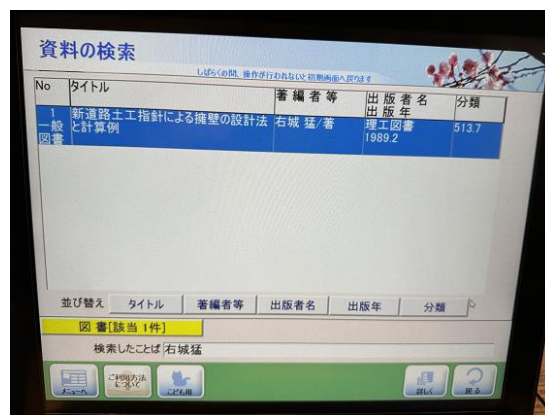
この建物は、富山市図書館本館としても利用されている。3階、4階、5階の陳列棚に図書が並べられていた。設置されていたパソコンに「右城猛」と入力して検索すると、『新道路土工指針による擁壁の設計法と計算例』理工図書 1989.2 が一冊だけ見つかった。私は本をこれまでに 24 冊出版している。この本は私の処女作である。嬉しいと思う反面、もっと多くの人が読んでくれる本を書きたいと思った。



木材がふんだんに使われた内装



デイル・チフリーの作品

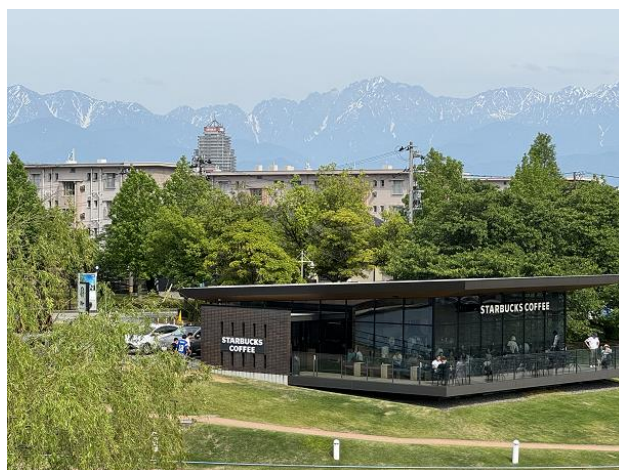


図書館にある右城猛の著書

4. 富岩運河環水公園 世界一美しいスターバックス

富岩運河環水公園にある「スターバックス コーヒー 富山環水公園店」は、2008 年のスターバックス社内コンテスト「ストアデザインアワード」で最優秀賞を受賞したことから「世界一美しいスタバ」と言われるようになったようである。

天門橋からスタバを眺めると、バックに立山連峰が見えた。世界一美しい景色であることに納得した。



スターバックス コーヒー 富山環水公園店



テラスでコーヒーを飲む

普段は観光客で溢れて長蛇の列ができているようである。私たちが行ったのは木曜日の 14 時 45 分であった。たまたま空いていたのかも知れない。混んでいなくてラッキーであった。テラスでアイスコーヒーを飲んだ。同じ値段のコーヒーよりも数倍美味しく感じた。

富岩運河と中島閘門

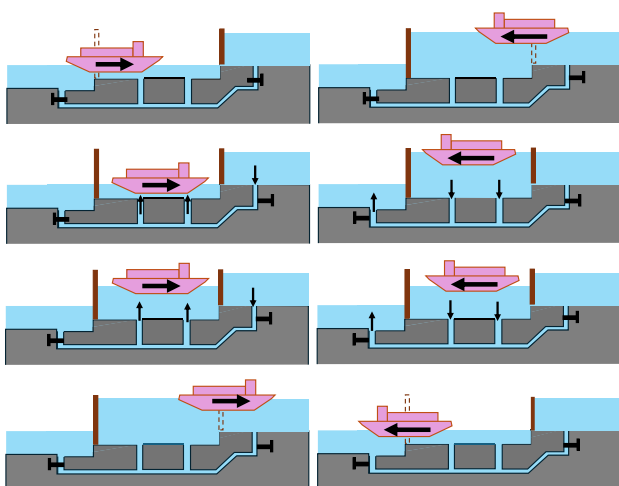
富岩運河は、富山港(岩瀬港)から富山市湊入船町までをつなぐ延長 5.1km の閘門式運河である。富山市と当時の東岩瀬町の両市町をつなぐことから「富岩運河(ふがんうんが)」と名付けられた。

1930(昭和 5)年から建設を行い 1935 年に完成。運河の建設により舟による資材の運搬が便利になり、運河沿岸は一大工業地帯を形成することになった。

現在、二艘のソーラー・クルーズ船が運行されている。平成 27 年就航の「fugan」と平成 31 年就航の「kansui」。いずれも定員は 55 名。

クルーズ船で木場橋、下新橋などの下を潜り 2km ほど下ると国指定重要文化財の中島閘門。閘門はパナマ運河方式で、マイターゲート(合掌式ゲート)の上流扉と下流扉で構成され、約 2.5m の水位差を門扉横の通水孔(通水扉)で調整している。閘室は長さ 60m、幅 9m、深さ 6.3m である。運河の開削にあわせて 1934(昭和 9)年に設置されたものである。

パナマ運河方式は、レオナルド・ダ・ヴィンチ(1452 - 1519 年)の考案である。彼の手書きノート「アトランティコ手稿」にミラノ運河サンマルコ閘門をプランしたデッサンが描かれている。「モナリザ」「最後の晩餐」などを描いたルネサンス期を代表する天才画家であることは誰もが知っているが、天才土木技術者でもあったのである。



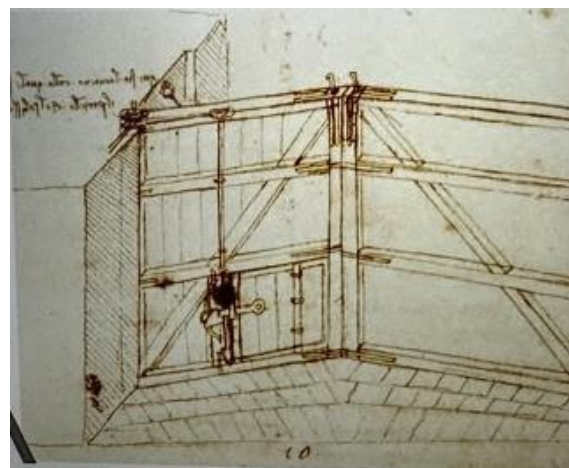
中島閘門の仕組み(画・右城猛)



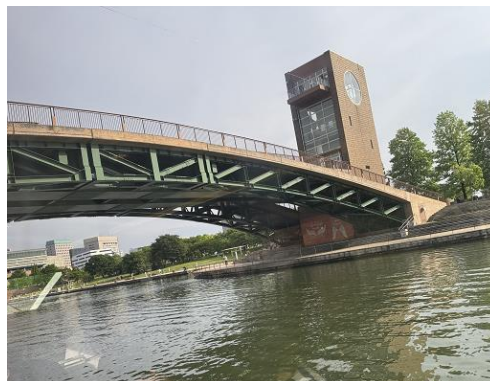
下流側から眺めた中島閘門



左側の小屋が閘門の操作室



レオナルド・ダ・ヴィンチがデッサンした閘門



河環水公園に架かる天門橋

河環水公園にトラスドアーチ形式と思われる橋梁が架けられていた。クルーズ船が橋下を潜り抜ける際に見ると、上下流がアーチ形式で中央はボックス桁形式になっていた。また、アーチは両端がヒンジ支承で中間に2つのヒンジが確認できた。そうだとすると4ヒンジアーチで1次の不安定構造になる。構造的にあり得ない。

不思議に思ってネットで調べて見ると、「天門橋は橋長58mで、両側の鋼トラス橋（サイドブリッジ）が中央部の鋼単純非合成箱桁橋（センターブリッジ）にヒンジ結合で支えられているというユニークな構造になっています」という説明文が見つかった。しかし、これ以上詳細な資料はなく、どのような構造がよく分からない。

5. 富山市内での夕食会と朝の散策

1日目の宿泊は富山市本町の「富山マンテンホテル」、以前の富山ワシントンホテルである。ホテルの前を南北に走る県道22号富山停車場線を横断して西側へいくと桜町。富山県内最大の歓楽街である。

夕食会はホテルに隣接した南館地下1階の「鯛屋」。店の中に生け簀があり、石鯛やヒラメが泳いでいた。

第2班の社員から、「初日の夜の料理は半端なく量が多くて美味しい。つい食べ過ぎて体調が悪くなった」という話を聞いていたので、勿体なかったが完食することなく適当に残した。

昨年の旅行はカナダであった。それに比べて日本の料理の美味しさと安さを強く実感した。

翌日はホテル出発が8時半であったので、6時から1時間ほどホテルの北側にある「松川べり彫刻公園」と「城址公園」を散策した。

県道22号が松川を渡る箇所に1935(昭和10)年竣工の鋼製2ヒンジアーチ橋が架かっていた。登録有形文化財に指定されている。

松川のへりには彫刻が設置されていた。富山市は芸術の町であるという印象を強く感じた。松川に沿った堤防沿いの道路に、「地震で壊れた道路をなおしています」という立て看板が設置され、舗装工事が行われていた。1月1日

の能登半島地震で地盤が液状化したのだろう。

松川が国道41号(城址大通り)と交差する地点の手前に、壮大な立山連峰を連想させるアトリウム屋根と展望塔のある立派な建物があつた。市制施行100周年を記念して1992(平成4)年に完成した、地上8階、地下2階建て、延べ床面積は43,500m²の富山市庁舎であつた。

展望台は無料で一般開放されており、立山連峰と富山市街を一望できるようである。このことをFacebookに上げると、国土交通省から出向されている富山市副市長の美濃部雄人氏から「今市役所の5Fにいます」というメッセージが入った。



松川に架かる桜橋



草明橋と彫刻



「鯛屋」での夕食会



富山市役所正面にある田中昭の彫刻「未来樹」

城址大通りを挟んで富山市役所の西側に立派なビルが建っていた。富山県庁舎である。

城址大通りは、並木のある中央分離帯を挟んで片側3車線の南北に走る真っ直ぐな道路である。富山市は戦災で焼け野が原になったことから、立派な都市計画道路が整備されたようである。城址大通りの両側にはフラワーハンギングバスケットが設置され、清掃も行き届いていた。

城址大通りには、有料の自転車貸し出しステーションがあった。市内中心部23カ所に設置されており、24時間自転車をレンタルすることができる。

城址大通りに面した西側には、城址(しろあと)公園が整備されていた。

公園の中にはお城のような建物があった。富山市郷土博物館である。富山市街は1945(昭和20)年8月の空襲で壊滅的な被害を受けた。震災復興事業完了を祝って富山産業大博覧会が開催された。その際の記念事業として建設されたものである。

吉田博先生との関係で、砺波市や小矢部市には何度か訪れたことがあったが、富山市は今回が初めてであった。あまりにも都市整備が進んでいるのに驚いた。

富山県は人口が100万人で高知県の1.5倍である。県の一般会計予算額は6,800億円で高知県の1.4倍である。県税を見てみると1,600億円で高知県の2.4倍である。都市整備の違いは経済力の差だろうと思った。



富山市役所の建物



立派な富山県庁



城址大通りのフラワーハンギングバスケット



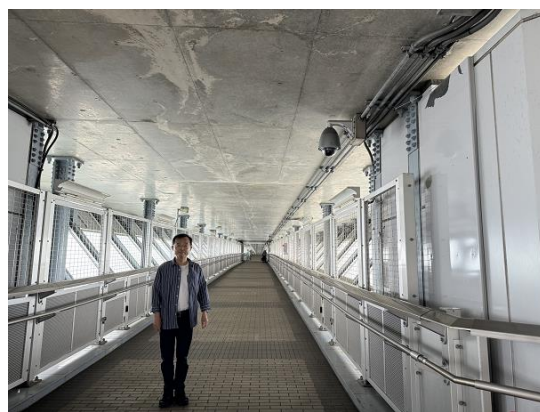
自転車貸し出しステーション



城址公園の太鼓橋「景雲橋」



城址公園の富山市郷土博物館(富山城)



プロムナード「あい風の風」

6. 新湊大橋

新湊大橋は、2012年に富山新港に架けられた橋梁で、アプローチ部も含めた総延長は3,600m、海上に架かる主橋梁部は600m、主塔間隔360mで日本海側最大級の斜張橋である。土木学会田中賞を受賞している。

田中賞は社団法人土木学会が、故田中豊博士を顕彰するため1966年に設けられた賞である。橋梁およびそれに類する構造物で、計画、設計、製作・施工、維持管理、更新、復旧などの面において特色を有する優れた作品に贈られている。

海峡部は車道とプロムナードの二層構造になっている。プロムナードとはフランス語で散歩道の意味。プロムナードまでは専用のエレベータで上ることができる。期待してプロムナードを中間位置まで歩いたが、側面のガラスは汚れて外の景色がよく見えない。

毎朝、ここを散歩しているという地元の老婆にあった。



新湊大橋



プロムナード「あい風の風」のエレベータへの連絡路

7. 高岡大仏と梶原製作所

高岡市では高岡大仏と鋳物資料館を見学する予定になっていたが、JTBにお願いして梶原製作所を追加してもらった。

梶原製作所は廣井勇の銅像を製作してくれている。2021年3月25日に完成した銅像を池川町の大野良一先生のアトリエに運んで来られたとき梶原寿治社長と一度だけお会いしている。

大野先生は坂本龍馬記念館の「シェイクハンド龍馬像」、オーテピアの「寺田寅彦像」、佐川町の「廣井勇像」、佐川町の「牧野富太郎胸像」の原型を製作されているが、その鋳造と仕上げはすべて梶原製作所が担当されている。

高岡に行くのであれば、梶原社長に挨拶し工場を見学させてもらいたいと思っていた。

大野先生に電話を入れ私の要望を話すと、すぐ梶原社長に連絡をとってくれた。教えてもらった梶原社長の携帯に電話を掛け、鋳物資料館の前に高岡大仏を見学することを話すと、高岡大仏の補修は梶原製作所が担当しているので説明をしてくれるという。また、梶原製作所の工場と金屋鋳物師町も案内してくれることになった。

10時に高岡大仏に行くと社長に伝えてあったが、新湊大橋を出発したのが9時50分であったため到着したのは10時15分になっていた。添乗員には話してあったが、高岡大仏までの所要時間をバスガイドに確認し、新湊大橋を出発する時間を事前に決めるべきであった。念には念を入れないといけないと改めて思った。

高岡大仏に到着すると、梶原社長がパンフレット30部を用意して待っていてくれた。

現在の大仏は1932(昭和7)年に復元され、1981(昭和56)年と2007(平成19)年に大修理が行われている。

高岡大仏は、奈良大仏、鎌倉大仏と並んで日本三大仏に数えられている。大仏の腹中には、1821年の大火から消失を逃れた金銅仏が安置されている。

高岡大仏の後、梶原製作所を見学させていただいた。高岡で日本の銅器の90%を製作している。高岡銅器協同組合には44社が加盟しており、各社で分業して効率的に作業をしているようである。



高岡大仏の説明をして下さる梶原寿治社長



1981年に修復された高岡大仏像



高岡大仏像の腹中に安置されている金銅仏



製作所の説明をしてくれる梶原社長



工場内に横綱「北の湖」と「双葉山」の原型が保存されていた



工場をバックに記念撮影。左の巨像が親鸞上人像

高岡大仏は1900(明治33)年の高岡大火で焼失している。現在の大仏は1932(昭和7)年に復元され、1981(昭和56)年と2007(平成19)年に大修理が行われている。

大仏の腹中には、1821年の大火から消失を逃れた金銅仏が安置されていた。

高岡大仏の後、梶原製作所を見学させていただいた。高岡で日本の銅器の90%を製作している。高岡銅器協同組合には44社が加盟しており、各社で分業して効率的に作業をしているようである。

しかしながら、大きな銅器は分業が難しいことから、梶原製作所が一手に引き受けているという話であった。高知県ではアンパンマンミュージアムにある高さ7mのアルミニウム合金鑄造「ジャイアントただんだん」や高知城公園にある鎧兜姿で馬に乗った「山内一豊像」も梶原製作所が手がけたということであった。

山内一豊像は1913(大正2)年に高知開市300年を記念して建立されていたが、1944年に金属供出で取り壊されていた。現在の銅像は1996(平成8)年に、18代目当主山内豊秋氏に依頼されて梶原製作所が製作したものである。一豊の資料が残されていなかったため、豊秋氏の写真を見て製作したため、一豊象の顔は豊秋の顔になっているという裏話を聞くことができた。

工場では高知市内の会社の倉庫で眠っていた巨大な親鸞聖人の銅像を修理中であった。

株式会社梶原製作所は1902(明治35)年創業の老舗企業である。120年の伝統は守りつつも、鑄造する銅合金の成分となる銅、スズ、亜鉛の配合を微妙に変えているようである。これは企業秘密であり誰にも教えないということであった。

近年は材料が高騰しており、経営が苦しいということも話されていた。

この後、高岡市鑄物資料館を見学する予定であったが時間がなく、昼食をする氷見漁港場外市場に直行した。

8. 金沢ひがし茶屋街

金沢市街を北西から南東方向に浅野川が流れており、浅野大橋が架かっている。1922(大正11)年に架設された橋長55m、幅員17mの鉄筋コンクリート造の3連アーチ橋である。国の登録有形文化財に指定されている。

浅野川の右岸側(東側)の城北大通りの左右両側に「ひがし茶屋街」が広がっている。左岸側(西側)には「にし茶屋街」と「主計町(かえずまち)茶屋街」がある。

私たちが観光したのは「ひがし茶屋街」。出格子のある建物が軒を並べている。出格子の代表的なものが木虫籠(きむすこ)。虫籠のような細かく規則的なスリットが特徴。格子の一本ごとに台形の形状になっており、内側にむけて少しすぼませることで、外からは中が見えず中からは外が見える、マジックミラーのような効果を生み出している。インドのベンガル地方の赤色顔料を用いたことから「弁柄(紅殻)格子」とも呼ばれる。

茶屋「懷華楼」に入り見学する。1820年に建築された金沢で一番大きなお茶屋。金沢市指定保存建造物になっている。1階のカフェで名物の「黄金くずきり」を食べた。黒蜜を金箔が覆っていた。

床板が透明のガラスになっており、地下室が見えた。遊びに来た旦那衆が、トラブルになったときに隠れる場所か

と尋ねたら、冷蔵庫の代わりにする雪室(ゆきむろ)とのこと。輪島塗の朱階段を上がって2階に行くと、金箔の水引で織られた畳の茶室などを見ることができた。



3連アーチの浅野川大橋



ひがし茶屋街の街並み



金沢市指定保存建造物「懷華楼」

ひがし茶屋街の茶屋は、「一見さんお断り」のしきたりが今も守られている。特別な人の紹介がない限り中にはいることはできない。

20年近く前だと思うが、金沢に本社がある株式会社フォーテックの後藤幸三社長に連れて行ってもらったことがある。大きなアカマツが建物を貫いて生えていたこと、純和風のカウンター席に後藤社長と並んでご馳走になったことを鮮明に覚えている。

その後、ひがし茶屋街には観光で何度か来ているが、松の木のある茶屋を目にすることはなかった。この旅行記を書いていて気になってネットで検索すると、「茶屋パー藤とし」という店が見つかった。なんと今回見学した懷華楼と同じ通りでしかも20mしか離れていない距離にあった。



マジックミラーのような木虫籠(きむすこ)



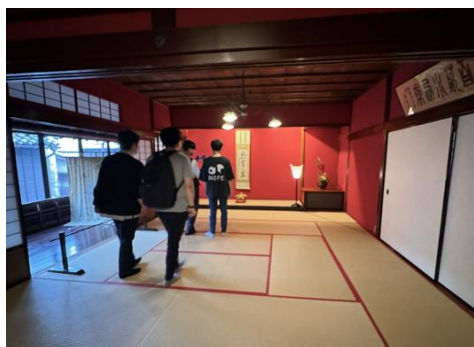
懷華楼の名物「黄金くずすり」



地下室の雪室



輪島塗の朱階段



旦那衆がお座敷遊びをする部屋

9. 金沢市での夕食

2日目の宿泊は金沢マンテンホテル駅前であった。夕食会はマンテンホテルから徒歩で20分の場所にある「底曳き割烹もんぜん」。シティホテル1階にあった。

今夜の料理も豪華。前菜、お刺身盛り合わせ、能登牛せいり蒸し、のどぐろ塩焼き、はす蒸し、天ぷら盛り合わせ、にぎり寿司、デザートである。満腹になり、酒はあまり飲めない。

能登半島地震災害調査の仕事で金沢に出張で来ている道路交通課の中平君、仲田君、調査測量課の高橋君の3名が私たちに会いに来てくれたので、JTBの添乗員2人に案内してもらって二次会に行く。

添乗員も含め13名、誰も土佐のお座敷遊び「はし拳」を知らないというので実演して教えてやる。私たちの小さい頃には、お客(宴会)が宴たけなわになると決まって男達が「はし拳」を始めた。何度も見ているので習わなくても自然と覚えることができた。

「金沢マンテンホテル駅前」の近くに屋台8店舗が軒を連ねた「ネオ屋台ストリート 金沢の屋台」がある。海鮮BBQがめちゃ美味しいと聞いていたが、残念ながらそこに行く気力は失せていた。



二次会の最後に記念撮影

10. 成巽閣

兼六園の中にある成巽閣(せいそんかく)は、1863(文久3)年に建造された柿(こけら)葺き屋根の木造二階建て、延床面積 440m²の日本様式建築。国の重要文化財に指定されている。

1 階には 10 以上の部屋がある。各部屋の間仕切りに土壁は使用せず戸、障子。全部外して大広間として使えるようになっている。

つくしの縁は縁側の長さが 20m あるが、桔木(はねぎ)によって軒を支える構造にすることで柱は1本も設けられていない。開放的に庭を眺めることができる。

築 160 年経つが健全である。耐震壁がないにも関わらず今年の能登半島地震にも耐えている。

4 月に能登半島地震被害調査に行ったとき、茅葺き屋根の古民家を見かけたが、倒壊した建物は一軒も見なかった。愛媛大学の森伸一郎先生も同様なコメントを Facebook に書かれていた。

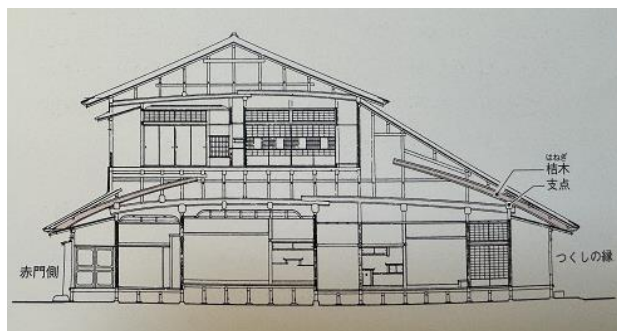
伝統的な昔の日本建築は屋根が軽く、耐震性に優れているのかも知れない。



成巽閣の入り口



成巽閣の建物



成巽閣の構造



縁側の長さが 20m あるつくしの縁

11. 兼六園と金沢城公園

兼六園は水戸偕楽園、岡山後楽園と並ぶ日本三大名園の 1 つ。

金沢城跡には石川門が遺っているだけで、その内側には金沢大学の法文、教育、理学の 3 学部のキャンパスがあった。工学部はここから南東方向に 2.5km ほど離れた金沢市小立野にあった。兼六園には何度も来ているが、石川門を潜って中に入ったことはなかった。

金沢大学は 1989(平成元)年にすべての学部が金沢市角間町(兼六園から南東方向に 6.5km)に移転し、その跡地が金沢城公園として整備されている。唯一重要文化財に指定されている石川門の内部が無料で公開されているというのではじめて石川門を潜って中に入った。

城郭の石垣には「野面積み」「打ち込みハギ積み」「切り込みハギ積み」があるが、石川門は左が打ち込みハギ積み、正面が切り込みハギ積みになっていた。

兼六園や金沢城公園には外国人の姿が目立った。バスの運転手から、白川郷を訪れている観光客の7割は外国人だと聞いた。

円安の影響で日本は欧米諸国に比べて物価が極端に安い。治安は抜群に良い。料理、食べ物が美味しくて清潔である。日本人にはお持てなしの心がある。旅行者にとってこんなに魅力的な国はないだろう。



霞ヶ池の微軫灯籠（ことじとうろう）と虹橋



日本最古の噴水。霞ヶ池からの水圧だけで3.5m上がっている



石川門の石垣



金沢城公園

12. 近江町市場

昼食とショッピングを兼ねて近江町市場に行った。ここには生鮮食品などの食品と生活雑貨を扱う小売店や飲食店など約170軒が商店街を形成している。今回の旅行中に食事が自由行動になっていたのはここだけである。

第2班の明神からメッチャ美味いと聞いていた店「能登牛たくみ」に真っ先に行き、「能登牛炙り寿司」を注文する。2貫で900円と高いが、確かに美味しかった。

別の鮮魚店で岩牡蠣、ボタンエビ、ウニを注文する。醤油を掛けて生で食べたが、これもまた抜群に美味しかった。

バスガイドが、金沢では蒲焼きと言えば「ドジョウの蒲焼き」と話していたので2本買って食べた。焼いて直ぐながらもっと美味しいだろうと思った。

近江町市場で最大規模の鮮魚店「大口水産」で特大の甘エビとヤリイカを買って自宅に宅配便で送り、翌日、生で醤油を掛けて食べた。両方とも甘くて美味しかった。こんなに美味しいと感じた甘エビとイカは初めてであった。



近江町市場



能登牛たくみ



岩牡蠣、ボタンエビ、ウニ

13. 小松空港から高知

小松空港から 16 時 55 分発の飛行機 ANA756 便で羽田に飛び、羽田で ANA569 便に乗り継いで高知に帰った。

小松空港の待ち時間に金剛一君がピアノを弾いていた。誰の指導も受けず独学で覚えたとのこと。語学にも長けている。音感が良いのだろう。天才的な才能があるのだろうと思った。



小松空港のロビーでピアノを弾く金剛一君



東京都心の上空を飛んで羽田空港に向かう ANA756 便



下には首都高速のレインボーブリッジが見える

14. あとがき

満足する旅行の 3 要素は、天気、料理、宿泊施設だといわれる。今回の旅行は 3 要素とも満点であった。

天気が悪いのではと心配していたが、3 日間とも好天に恵まれた。

料理はどこも富山湾で捕れた新鮮な海鮮料理が主体であった。糖尿病である身を忘れてつい食べ過ぎてしまった。

宿泊は富山、金沢ともマンテンホテルであった。大浴場があり、そのラジウム温泉に浸かって旅の疲れをとることができた。

今回の旅行では新入社員 8 人全員が同じ 3 班であった。食事のときには新入社員が私の周りに座り、「社長は 20 代に何をしていたか」「成功するには何が大切か」などの質問を積極的に投げかけてきた。私の経験を踏まえ 20 代でやるべき大事なことや、私の夢を伝えることができた。

感動が連続した大満足の旅行、そして北陸の素晴らしさを実感する旅行であった。